

地域銀行有価証券運用モニタリング 中間とりまとめ

主なポイント

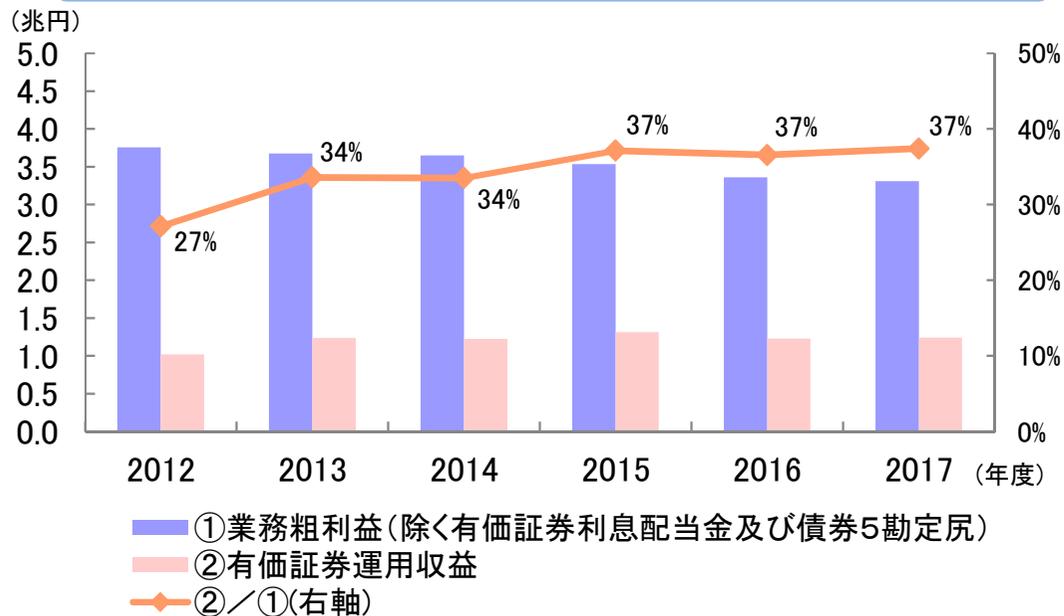


平成30年7月
金融庁

有価証券運用モニタリングの概要

- 地域銀行では、有価証券運用への収益依存度が高まっている
- 有価証券運用でのリスクテイクが、経営体力やリスクコントロール能力と比較して過大と考えられる地域銀行が少なからず存在
- 28事務年度以降、有価証券運用でのリスクテイクが経営体力・リスクコントロール能力対比で高いとみられる地域銀行31先（銀行27行、持株会社4社）に対し、検査を含む重点的なモニタリングを実施
 - ✓ 金融システムに与えるマクロ的な影響の評価（マクロプルーデンス）
 - ✓ 個別金融機関の有価証券運用に係る課題の検証（ミクロプルーデンス）

地域銀行の有価証券運用への収益依存度



(注)有価証券運用収益=有価証券利息配当金+債券5勘定戻+株式3勘定戻
(資料)金融庁

モニタリングの主な着眼点

1. 経営体力・リスクコントロール能力対比での有価証券運用のリスクテイク・含み損の妥当性
2. リスクテイクに見合った運用態勢・リスク管理態勢の構築状況
3. 経営陣によるリスクガバナンスの発揮状況

金融システムに与えるマクロ的な影響

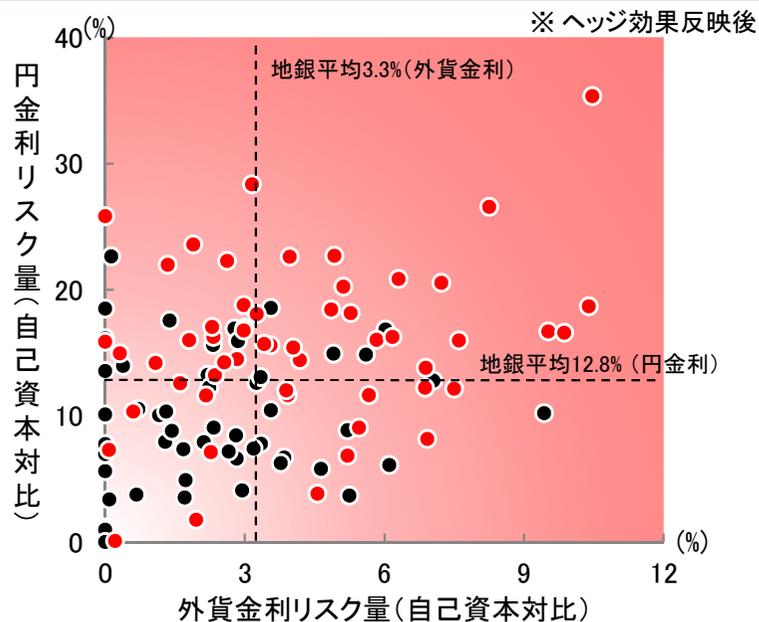
自己資本対比の金利リスク量

- 地域銀行の円金利リスク量は、自己資本対比で**主要行等の3倍近い状況が継続**
- 18年2月末時点の自己資本対比金利リスク量をみると、**地域銀行平均と比較して円金利リスク量で2.5倍以上、外貨金利リスク量で3倍以上となる先が存在**

期間収益対比の含み損

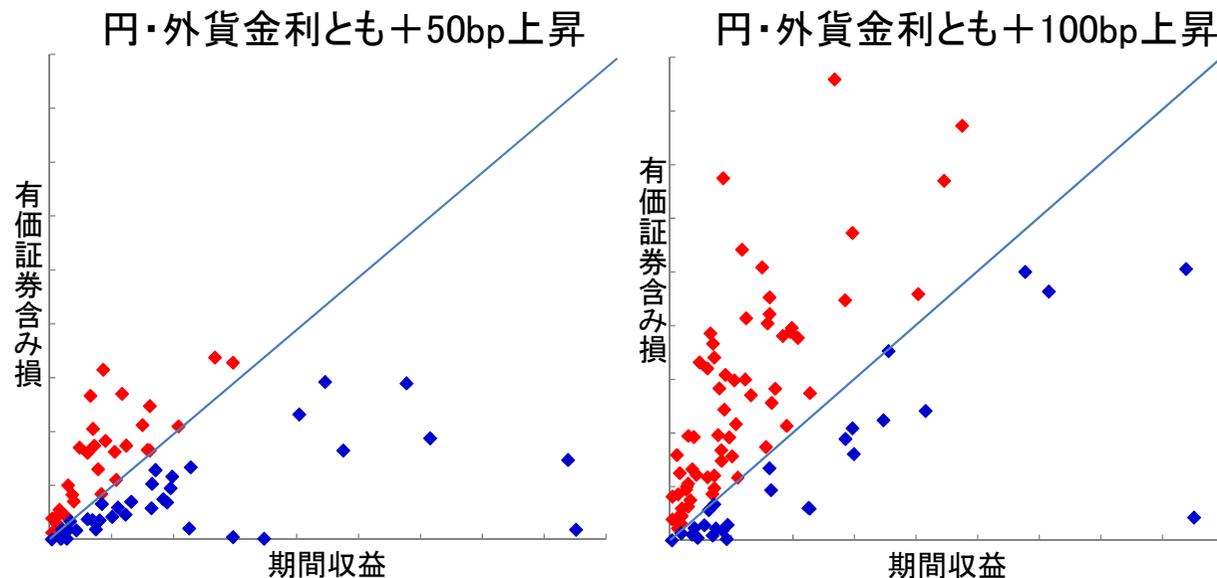
- 円・外貨金利ともに18年3月末時点から+50bp上昇すると、**地域銀行の1/4超の先で期間収益を上回る含み損が発生するとの試算結果**

地域銀行の金利リスクテイク*分布



黒点: 本業利益(貸出残高×預貸金利回り差+役務取引等利益-営業経費)が黒字の銀行
赤点: 本業利益が赤字の銀行
(資料) 金融庁

金利上昇時の有価証券含み損と期間収益



赤点: 有価証券含み損(満期保有目的・政策投資株式除く)が期間収益を上回っている銀行
青点: 有価証券含み損(満期保有目的・政策投資株式除く)が期間収益を下回っている銀行

(注) 図表では、地域銀行106行のうち有価証券含み損が生じている先を中心に試算値を表示 (資料) 金融庁 2

有価証券運用に係る課題

経営体力・リスクコントロール能力対比でのリスクテイクの妥当性

- 経営体力やリスクコントロール能力対比でのリスクテイクや含み損の処理に課題（31先中23先）
- 目先の収益を確保するため、有価証券含み損の処理を先送り（上記23先中8先）

リスクテイクに見合った運用態勢・リスク管理態勢の構築状況

- 経営陣に運用状況を適切に報告していないなど、経営陣への報告態勢に課題（31先中13先）
- 数名の担当者で複雑な投信等に多数・多額の投資をするなど、複雑な商品の運用・リスク管理態勢に課題（同6先）
- 市場急変時を想定した対応策に関し、経営体力対比で許容できる損失限度額設定や、限度額に抵触した際の具体的なアクションプランの策定、経営陣の関与・判断に課題（同20先）

- 一定の改善がみられているものの、依然として改善の余地が大きい部分も少なくない
- 今後、以下の地域銀行の有価証券運用に関する問題意識に基づき、地域銀行の有価証券運用について対話を深めていく

過大なリスクテイクは個別金融機関に対する信認低下のみならず、連鎖的に金融システム全体に対する信認低下をもたらす懸念

1. 経営体力・リスクコントロール能力に見合ったリスクテイク

2. リスクテイクに見合った実効的な運用態勢・リスク管理態勢の構築

3. リスクガバナンスの発揮(リスクアペタイトフレームワークの活用)

- 有価証券運用に過度に依存しないビジネスモデルの構築
- 取締役会等において定めたリスクテイク領域やリスクテイク上限、許容できる含み損の範囲内でリスクテイク
- 適性のある人材の確保・育成
- 予期せぬ市場変動発生時でも損失を一定に抑制できる損失限度枠管理の構築等
- 安定的な外貨調達を含めた外貨流動性リスク管理の高度化
- 適切なリスクテイク領域・リスクテイク上限の設定
- 有価証券含み損の許容範囲の設定(自己資本額や一定の期間収益を参照)
- リスクテイクが上記範囲内にあるか、リスクテイクに見合った実効的な運用態勢・リスク管理態勢が構築されているか常に検証